講義名	実験計画法		_		授業形態		その他				
		閉禁钳,啜口,時間	┃ 艮 前期 火曜日 2時隔	3			授業内に <参考図 よくわか	プリント資料を配布する。 書 > る心理統計 (2004) 山田剛史・村井潤一郎 著 ミネル	レヴァ書房		
担当教員	吉村 典子	1950年907、14年1日、14年1日	文 前頭 八曜日 2 時間				0 (17.5				
		単位数 2 履	修開始年次 2年生	ナンバリン ・ド	(グ・コ EXP260						
題と概要											
人間の心理と行動を科学的に分析し予測するために、心理学ではしばしば心を数値データに置き換える。そのために実験(調査)計画を立て、実験(調査)を行い、データを統計的に処理する必要がある。 本調養では、心理学的な手法で得たデータを分析するために必要な知識を学ぶことを主題とする。そこで実際にデータを取り、そのデータに応じた記述統計や推測統計の方法が写につくよう指導する。統計 には統計ソフトを使用し、数式ははとんど出てこない。本調義で学ぶ新聞は、「平均値と神等偏差」が相関、「カイス事業で、(検定、「分数が有」である。							授業計画				
平興教では、心理学的4年法で特にアークを方析すらにのに必要は知識な子がにとき土地とする。そこで実際にアークを取り、そのアークに向いたは必然者で推薦的者での方法が身にしてよう指導する。統者 には統計ソフトを使用し、数式はほとんど出てこない。本講義で学ぶ統計は、「平均値と標準偏差」「相関」「カイ2乗検定」「1検定」「分散分析」である。						1 授業概要、目標などの説明 ・ 近望字と統計の関係 実際にデータを取ってみる(類問紙調査)					
						復営:授業内谷の復営と課題への取り組み(4時間)					
						ジャータ がまた	/を数値に直き探える(Excellに入刀してみよつ) の質の理解(尺度水準:名義尺度、順序尺度、間隔尺度、 法の違いを知る	比率尺度)			
							予習:デ 復習:提	を表始信置を換える(Excelに入力してみよう) の質の理解(尺度水率:名義尺度、順序尺度、間隔尺度、 法の建しを迎した日常の情報収集(28時間) 案内容の復習と課題への取り組み(2時間)			
							3 簡単:	な実験をやってみよう(心理用語の理解) タのまとめ方(記述統計:平均値、中央値、標準偏差) ータに関連した日常の情報収集(2時間)			
							復習:担	業内容の復習と課題への取り組み(2時間)			
」 連目標						4 2つの変数の関係を見よう 数有限(日間)担間を設 予留・相関(関連)、上口常の情報以集(296間) 複響:投棄内容の複響と複雑への取り組み(296間)					
本講義の目標は、データに応じた心理焼計の方法がわかるようになること、また算出された結果を読み取り記述すること、結果の意味が分かるようになることである。具体的には以下の通りである。						予習:相	関に関連した日常の情報収集(2時間) 業内容の復習と課題への取り組み(2時間)				
心理やの研究計画について知識を得、正いい方法をとることができる。 が理学研究はに関連した心理開発を練り、使用することができる。 データによる尺度水準の違いを見極めることができる。 統計ソフトを使って、データの平均偏、中央風、標準偏差を求めることができる。また、平均値と中央値の違いとそれぞれの利点と欠点、標準偏差の意味を理解できる。 実験、調査計画に応じた必要な心理統計の方法を見極めることができる。 「相関係版」「カイニ業検定」「は検定」「分数分析」を続計ソフトで行い、結果を読み取り記述することができる。						5~6 統計的	検定の基本的な考え方				
テータによる代技水率の遅れを見極めることができる。 統計ソフトを使って、データの平均値、中央値、標準偏差を求めることができる。また、平均値と中央値の違いとそれぞれの利点と欠点、標準偏差の意味を理解できる。 実験・調査計画に応じた必要な心理統計の方法を見極めることができる。							5 説料的検定の基本的な考え方 網質解放送対位成認、有意水準 子智・統計的検定についての予賞(毎回時間) 復憲:投棄所のの復意に関わる取り組み(日回2時間)				
「相関係数」「カイ二乗検定」「七検定」「分散分析」を統計ソフトで行い、結果を読み取り記述することができる。						7 カイ2乗検定 予警・名義データによるデータの日常の情報収集 (2時間) 復警:投業所全の復じ名競争への取り組み (2時間)					
							8 理解度チェックテスト(ここまでの復習) 予書: テスト 制強(3時間) 復習: テストで不明だった顔所の復習(1時間)				
							9 ~ 10				
出課題							+ #4	説 『均値を比べよう 定(対応なし)			
習熟程度を確認するため、毎回課題の提出がある。						- 検定(対応あり) - 接続 (対応あり) - 接続 (対応あり) - 接続 (対応あり) - 予習 (半り値の検定についての予習 (各回2時間) - 接密 投票内容の復習と故難への取り組み (各回22時間)					
							11 ~ 12	この平均値を比べよう			
							対数	分析:1要因 公析:2番目			
								がが、1.2gkm 均値の検定についての予習(各回2時間) 業内容の復習と課題への取り組み(各回2時間)			
							13~15 レポー	ト試験の課題に取り組む ポート試験の課題への取り組み(各回4時間)			
							1長日・レ	ルー「記念の課題、OD取り配み(日日449回)			
課題(レポー)	トや小テスト等)に対するフィードバックの方法										
	業内あるいは次週の授業の最初に課題を返却し、解答と解説を行	う。全体の理解が不十分なり	易合は再度説明し、類似課題	を与えることもある。				(アクティブ・ラーニング) ア:PBL(課題解決型学習)			イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
							\vdash	r:rbl(課題解決型子音) ウ:ディスカッション、ディベート			1: 反転役業(知識首件の安系を投棄外に消ませ、知識雑談寺の安系を教皇で行う授業形態) エ: グルーブワーク
								オ:ブレゼンテーション			カ:実習、フィールドワーク
								キ:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれに	こも該当しない場合)		
						卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
							この科目は心理学の調査法に関わり、社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など現実社会の様々なテーマに取り組む、具体的なアプローチの方法を学ぶため、各目標の達成はDP(1)・の達成のために				
で							■ 黄献する。 目様 から を達成することで、統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究のデータの扱い方を身につけることができ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用するというDP(1)・ に質念 できる。 目様、から _ の達成は、人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎知識を学ぶことになり、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動の科学的分析と予測が可能になる。そのため、各目標の達成は、DP(3)ー				
授業への取り組み、提出課題、 理解度チェックテストを設合して 55% 機能とボートは数 45%							目標が	ら の達成は、人間の精神機能と心理学の研究法に関す に貢献する。 の達成によって、援助を求める人の心理や行動の知識	る基礎知識を学ぶことになり、さまざま	な場面	に直面する人間の心理と行動の科学的分析と予測が可能になる。そのため、各目標の達成は、DP(3)-
破談レバート試験・・45%						日標、	の達成にようで、援助を求める人の心理や行動の知識	を付し、援助場画で心理子を応用する奉作	f能C 9	ることかでき、U*(3) − に見感できる。	
	ての注意・助言他						双方向抗	業の実施及びICTの活用に関する記述			
基本的な受講マ 欠席すると内容(ナーを守ること。 の理解に支障が出る。基本的に毎回出席し、課題の提出は必須と するので、USBなどのメモリを用意すること。 、個別に問題の冊子を渡し、それを完成させて提出する形式にな	考えること。									
ハジョンを使用・レポート試験は、	9 るので、USBなどのメモリを用意すること。 、個別に問題の冊子を渡し、それを完成させて提出する形式にな	っている。									
						実務経験の有無及び活用					
							- 1/Jm2/5				
科書											
(作音)					1						
		1					備考				
考図書											
					ļ <u>T</u>						
											
		1									